

# がん × 認知症

高齢化社会における「がんと認知症の合併」問題  
～北海道旭川市における実態調査、分析と提言～



## ◆ 目的：がんと認知症が合併した際の課題やその対応方法について考える

◆ **きっかけ**：高齢化が進む日本において、認知症の方は急速に増加しており、現在の患者数は約500万人といわれています。認知症の方ががんになった場合、自覚症状を訴えづらく、検診などの具体的な行動も取れないため、がんが重症化してから発見されるケースが増えています。このように、高齢化と共にがんの方の数も増加しているため、「がんと認知症の合併」に関する問題は、社会として取り組むべき課題となってきました。

「がんと認知症合併」問題については、実情が十分に把握されておらず、何が課題なのかすらまだ明確とはなっていないのが現状ではないでしょうか。そこで、医療職と介護職の連携が進んでいる旭川市において、まず現状を把握するところから、このプロジェクトが始まりました。

◆ **メンバー**：医療関係者（医師、看護師）、福祉・介護関係者（介護職、社会福祉協議会、地域包括支援センター）、認知症患者の家族会、その他

◆ **活動内容**：2014年8月～2015年8月、「がんと認知症の合併」をテーマに、旭川市の実態調査を行いました（\*調査には、「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」の助成を頂きました）。今回の調査のための情報収集や協力依頼を関係機関に行う中で、この問題に直面している様々な立場の方との顔が見えるつながりが生まれ、活動が広がってきています。

開催時期	活動内容
2014年 8月	認知症サポーター養成講座に参加し情報収集
9-10月	アンケート試案を基に意見聴取（医療職・介護職等）
10-11月	調査ミーティングを5回、のべ103名の参加
11月	旭川市内の全9か所の地域包括支援センターを訪問、協力依頼。
11月	キャラバンメイト研修会に参加、情報収集と協力依頼
12月	認知症家族会「ほっとひととき」に参加、家族の皆様から話を聞く
2014年12月-2015年2月	介護技法「ユマニチュード」講演会実行委員会に参加
2015年 1月	旭川市社会福祉協議会認知症担当者、認知症家族会のみなさま、ケアマネージャーのみなさまからヒアリング
2月	グループホーム職員の皆様からヒアリング
4-6月	事例検討会を5回実施、のべ89名の参加
8月	医療職、介護職、家族会などにアンケート依頼 完了報告書を作成

## ◆ 「がんと認知症の合併」問題～旭川市における実態調査

【目的】 認知症とがんを合併した場合の問題について、旭川市の現状を調査し、今後について考えること。

【対象】 認知症患者のご家族(15名)、福祉・介護関係者(169名)、医療者(80名)、計264名

【方法】 アンケートやヒアリング調査を行い、それぞれの現場の状況や問題点を抽出し、まとめました。

【結果の一部抜粋】

今回の調査では、①**家族**、②**介護者**、③**医療者**という3つの立場の間で、様々な認識にギャップがあることが明らかとなりました。

<認知症の方のがん治療方針の意思決定>

- ①**家族**：家族で決めたい（85%）
- ②**介護者**：本人の意思を可能な限り尊重したい（60%以上）
- ③**医療者**：本人の意思を可能な限り尊重したい（60%以上）

<がん治療の内容>

- ①**家族**：緩和治療を希望（90%以上）・・・積極的な治療の希望は10%以下
- ③**医療者**：軽症から中等症の認知症でがんが根治できる段階ならば標準的な治療を勧める（50%）  
・・・半数が積極的な治療も考える

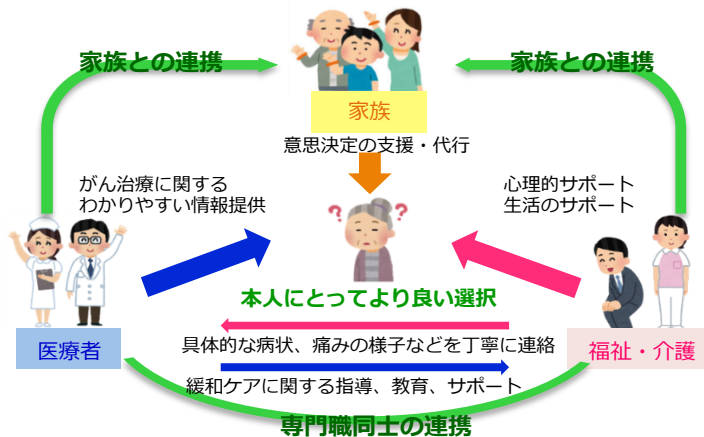
この他、がんの告知、検査、本人の痛みの感じ方、最期を過ごす場所などについての考え方にずれがあることが分かりました。

【調査を通して見えてきた課題&今後の活動】

今回は調査の対象人数も少なく、必ずしもこれが一般的な認識だと結論づけることはできませんが、「がんと認知症の合併」問題に関して、**ご家族**、**福祉・介護関係者**、**医療者**の3者それぞれの認識にギャップがあることが示唆されました。また、アンケートからは、認知症患者さんの意思決定を代理で行う立場のご家族は、その決定に悩み、心理的負担も大きいことがうかがえました。

本人の意思決定が困難となる認知症患者さんのがん治療に関しては、**ご家族**、**福祉・介護関係者**、**医療者**の3者が十分な連携を取り、本人にとってより良い治療選択が出来るように、ご家族・本人への丁寧なわかりやすい情報提供・治療選択の提示が必要だと考えられました。

また、今回のアンケートやヒアリング調査を通じて、新しいつながりや人脈を得られたことはとても大きな収穫と考えています。今後は、この調査によってできたつながりを生かして、地域におけるご家族と専門職同士の連携ネットワーク作りや啓発活動に取り組んでいきたいと考えています。



## ◆ 活動メンバーの声

高齢者で認知症の方ががんと診断されても、今まではそのことを深く考えたことはありませんでした。しかし検査の難しさもある認知症高齢者であっても、根治を目指して治療を行う方が少なくないという事を知り、自分の考えの狭さに気が付くことができました。